

令和元年度 埼玉県学力・学習状況調査 質問紙の項目(昨年度との比較)

内容		小4	小5	小6	中1	中2	中3	項目ごとの分析
		県	91.7	94.0	94.6	98.1	97.5	
①登校時刻	幸手市	94.0	92.3	96.7	98.9	97.6	95.4	ほぼ県平均。経年変化を見ても90%以上を続けている。
	H30	87.8	97.0	96.0	99.1	97.5	95.6	
	H29	92.1	95.5	95.0	98.0	97.2	95.4	
	県	92.9	94.4	95.2	98.2	97.5	97.1	
②授業開始時刻	幸手市	94.5	93.4	96.1	99.2	97.0	95.1	しっかりと意識化が図られている。
	H30	90.7	97.0	95.8	98.2	98.0	97.7	
	H29	90.7	92.9	95.9	99.4	96.7	97.3	
	県	84.8	86.1	88.8	92.3	92.4	92.2	
③靴そろえ	幸手市	88.0	86.3	91.4	93.5	93.7	92.0	しっかりと意識化が図られている。
	H30	81.1	88.4	92.3	93.2	92.4	94.8	
	H29	84.2	87.8	89.5	92.2	93.0	93.7	
	県	83.7	83.3	84.2	85.4	86.1	86.4	
④整理整頓	幸手市	87.2	84.2	87.5	89.5	88.6	88.2	県平均を全ての学年で超えている。90%を超えるように、細かな声かけが今後必要である。
	H30	79.0	90.1	89.2	89.1	89.8	88.9	
	H29	86.6	87.8	85.9	90.5	86.7	90.7	
	県	81.3	80.3	80.9	84.0	84.9	84.0	
⑤あいさつ	幸手市	83.2	79.9	85.3	88.4	82.6	78.4	中学校でのあいさつ運動をしっかりと行うことが必要である。
	H30	77.1	84.6	82.5	84.1	80.2	82.1	
	H29	84.2	82.0	85.1	83.5	82.7	74.9	
	県	90.7	88.6	88.4	90.5	88.7	88.6	
⑥返事	幸手市	92.0	84.7	88.9	92.7	86.2	87.4	各学年において、ばらつきがみられる。(昨年度も同様の傾向)幸手スタンダード授業5の徹底を一層進めることが必要である。
	H30	84.0	91.5	89.9	87.9	85.6	89.4	
	H29	88.6	86.5	84.3	91.9	91.2	77.4	
	県	87.4	86.5	88.0	93.9	90.7	91.9	
⑦ていねいな言葉づかい	幸手市	87.7	85.2	90.6	94.4	85.9	88.8	時と場に応じた言葉遣いを意識して生活したり、学校生活における言語環境をより整えたりすることが大切である。
	H30	83.2	89.3	93.7	92.9	88.4	92.5	
	H29	87.2	89.7	87.6	92.7	90.7	88.3	
	県	85.0	83.9	84.0	91.4	86.3	87.1	
⑧やさしい言葉づかい	幸手市	87.5	85.5	88.1	91.5	83.8	87.9	昨年度より改善している。
	H30	77.7	88.7	88.6	88.8	85.3	89.6	
	H29	85.8	86.5	83.4	93.0	88.5	83.9	
	県	81.0	85.2	86.0	92.1	89.9	89.6	
⑨学習準備	幸手市	89.0	87.6	92.5	94.9	90.1	86.5	昨年度は学年が上がるにつれて、学習準備がおろそかになってきていたが、改善されてきている。
	H30	82.7	89.3	91.8	90.6	88.1	89.4	
	H29	84.2	92.9	88.7	92.7	88.0	81.7	
	県	81.3	75.4	74.5	76.6	71.9	71.7	
⑩話を聞き発表をする	幸手市	80.7	78.4	78.4	77.1	65.6	69.5	授業において、昨年度に引き続き課題である。特に中学校でのポイントが低いので、授業改善とともに学級経営の見直しが必要である。
	H30	77.1	82.4	78.0	72.9	66.7	72.8	
	H29	81.2	75.4	72.7	80.4	69.2	57.5	
	県	85.2	85.3	85.8	94.9	93.5	94.7	
⑪集団の場での態度	幸手市	86.7	82.8	90.3	95.2	91.0	93.7	市全体として改善傾向である。
	H30	83.8	88.7	88.9	93.5	92.9	95.3	
	H29	83.9	88.9	85.9	94.1	93.0	91.8	
	県	91.1	89.5	87.7	86.6	85.6	84.5	
⑫掃除・美化活動	幸手市	91.5	90.8	90.3	86.2	79.6	80.2	学年が上がるにつれ下がる傾向にある。掃除の意義を合わせて指導することが必要である。
	H30	89.6	91.5	90.2	80.8	82.5	86.3	
	H29	88.8	90.2	87.0	84.3	84.5	75.5	

※表中の数字は、児童質問紙調査で児童生徒が「できる」「よくできる」「たいていできる」の合計と回答した割合(達成率)

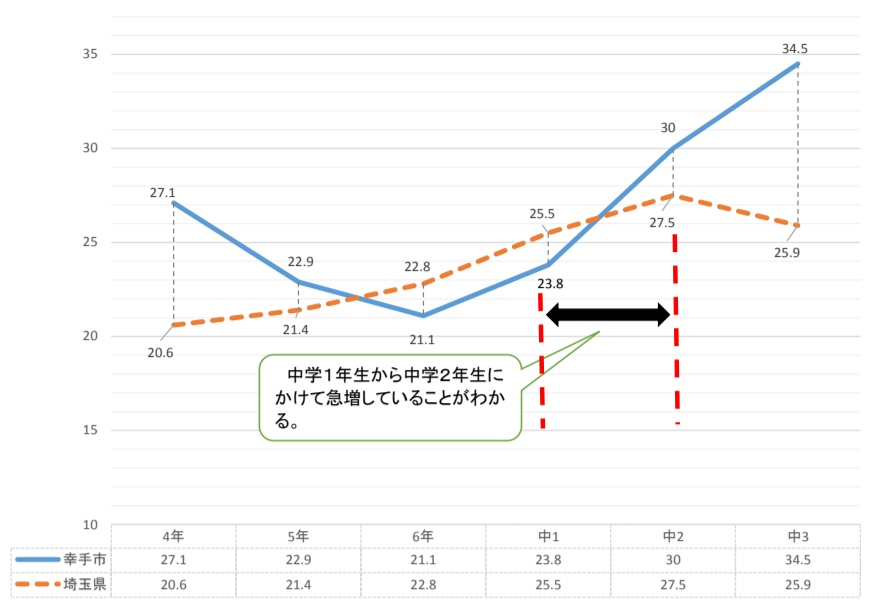
●...県平均を超えている所
 ●...80%以下の所
 ●...昨年度で県平均を超えた所

全体的には昨年度と同様の様子が見られる。
 ・県では80%を基準としているが、幸手市ではほとんどの項目で平均が80%を超えている。
 ・「授業で話を聞き発表をする」が一番の課題。小学校4年生以外はずべて80%を下回っている。
 ・この項目は、主体的対話的で深い学びに直結するものであり、授業改善と学級経営の充実という面から改善を図る必要がある。
 ・あわせて、学級経営に視点を当て、話しやすい雰囲気づくりも必要であると考えられる。

質問紙から抜粋

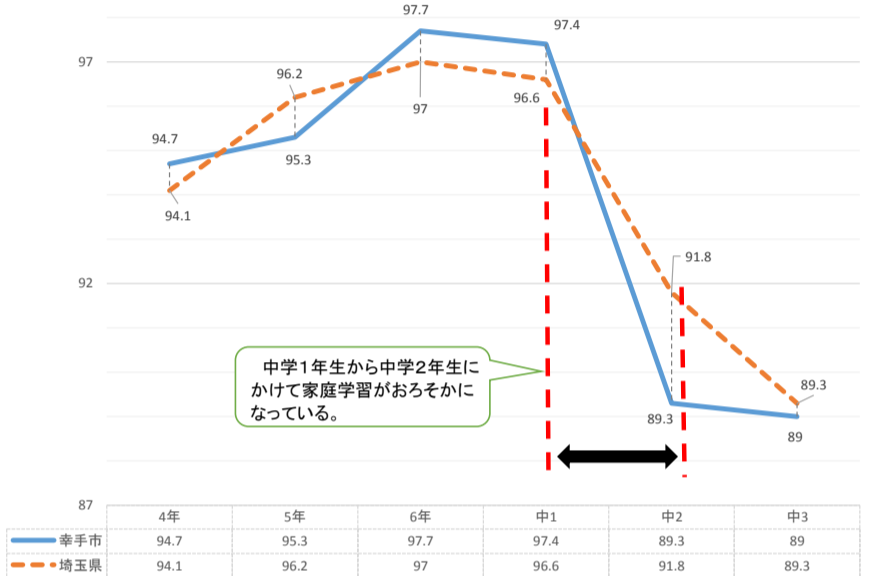
①

1日に3時間以上スマホゲーム、テレビゲームをしている割合 %



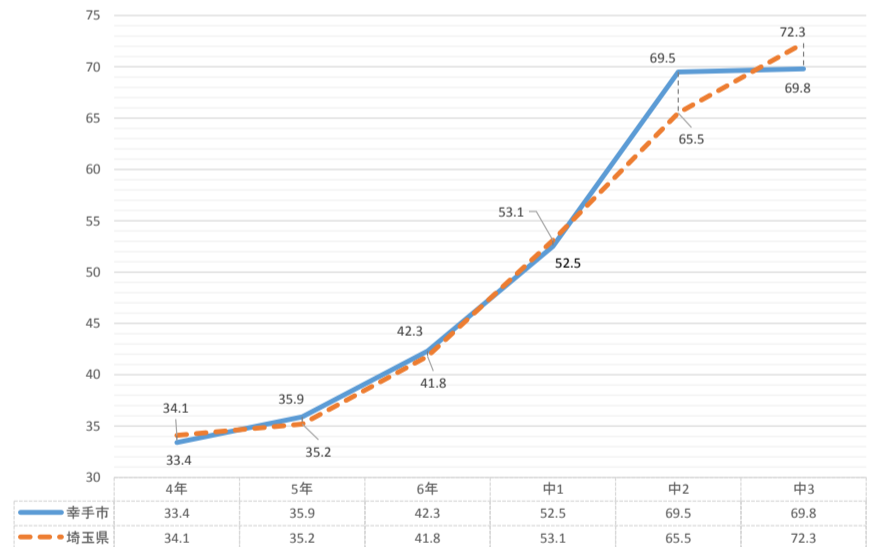
②

家庭学習をしていますか？します・だいたいしていますと解答した割合 %



③

1か月に何冊本を読みますか？全く読まない・1~2冊と解答した割合 %



①~③それぞれについて

①について

昨年度と同様の傾向がみられる。中学校1年生からスマホを使ったゲームが増加している。テレビゲームも含まれているが、学年が上がるにつれてスマホをもつ生徒が増えることから、スマホゲームに使用しているとも考えられる。また、このグラフにはスマホを使った通話やSNSは含まれていないことから、スマホの使用時間はこのデータより長くなると考えられる。スマホ行動宣言を浸透させ、指導していく必要がある。

②について

昨年度は小学校段階では県平均とほぼ同等であったが、教師の呼びかけ等により、中学校1年生の4月までしっかりと家庭学習を行う意識が高い。しかし、グラフのとおり、中学校1年生から2年生にかけて8.1%も減少し、これは、昨年度の下げ幅より大きい。この時期において家庭学習の大切さを改めて考えると、中学校においての家庭学習のチェック体制の見直し等が急務である。また、家庭学習を「毎日取り組んでいる」と回答した生徒の平均正答率と、「だいたいしている」と回答する生徒の平均正答率には大きな差がある。

③について

昨年度と同様の様子が見られる。中1を過ぎると県平均より高い割合で増えていることがわかる。部活動等も考えられるが、時間を読書に使わないことが考えられる。また、全国的な傾向でもあるが、小学校段階において、1か月に本に全く触れなかったり、月1、2冊しか読まない児童もいる。小学校段階からの家読等の取組の充実が必要である。